

65号
2023年
夏

赤れんが通信

北海道庁国際課

JET スポットライト：レ・ミン・ゴック（帯広市 CIR）

北海道

www.pref.hokkaido.lg.jp

赤れんが通信は、北海道庁の国際課に勤務する国際交流員（CIR）が発行しています。
「国際課」とはどんな仕事をしているのか？その謎を追ってみます！

北海道庁



美しい建物は残念ながら北海道庁旧本庁舎です。私たちが現在働いているのは、もっと地味なコンクリートの立方体です（下図参照）。

道庁は大きい：本庁舎だけで 3500 人以上の職員がいます。知事をトップとする組織には、1 万 2 千人を超える道職員が働いています！もちろん、部局もたくさんあります。そのひとつに総合政策部があり、その下には地域創生局、交通政策局、国際局などさまざまな局に分かれています。私の職場である国際課があるのは、文字を見てお気づきだと思いますが、国際局です！



Past issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng_japanese_edition.html

Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Armi Henriksson)
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81(0)11-231-4303

国際課

国際課のほとんどは、北海道庁本庁舎の4階にある1つのオフィスで業務を行っています。ここには6つの係があります：

- 国際交流係
- 国際化推進担当
- 多文化共生係
- 国際企画係
- 未来人財担当
- 企画調整係

その名の通り、様々な業務を行っています。例えば、道内在住外国人を支援するための各種機関との連携、他の課からの資料の翻訳、海外地域と北海道との表敬訪問のコーディネートなどです。

北海道の姉妹・友好提携を維持するための業務の多くも、国際課が担当しています。現在、北海道は以下の地域と姉妹・友好提携しています：



- アルバータ (カナダ)
- サハリン (ロシア)
- チェンマイ (タイ)
- ハワイ (アメリカ)
- マサチューセッツ (アメリカ)
- 黒龍江省 (中国)
- ソウル (韓国)
- 慶尚南道 (韓国)
- 釜山 (韓国)
- 済州 (韓国)

筆者について

ヘンリクソン・アルミと申します。JETプログラム（外国語青年招致事業）で採用され、北海道の国際交流員として2年目を迎えようとしています。JETプログラムでの最初の3年間は、外国語指導助手（ALT）として、道北の枝幸町と浜頓別町の高校で勤務しました。

国際課での私の役割は「英語を話す国際交流員」ですが、実は英語圏出身ではありません：出身はフィンランドです。サウナや庭遊びのモルックなど、フィンランドの文化が最近北海道で人気を集めているのを嬉しく思っています！

翻訳チェック、学校訪問、英会話教室などの CIR の通常業務に加え、北海道の他の JET プログラム参加者のための取りまとめ団体アドバイザーも私の主な仕事です。北海道には現在 25 国から 300 人以上の JET 参加者がおり、私たち国際課は彼らが北海道で活躍できるよう支援することを目的としています。任用団体との連絡、情報の提供、問い合わせへの対応などを行っています。JET プログラムについてもっと知りたい方は、次のページの「北海道 JET スポットライト」をご覧ください！





北海道 JET スポットライト



北海道には300人以上のJETプログラム参加者（外国語指導助手、国際交流員、スポーツ国際交流員）がいます。赤れんが通信では、こうした様々な国々からやって来た皆さんのストーリーを伝えていきます。今回は、十勝地方の帯広市在住の国際交流員（CIR）を紹介します。



MEET LE MINH NGOC

簡単な自己紹介をお願いします。

皆さん、初めまして。ベトナム出身の帯広市国際交流課国際交流員レ・ミン・ゴックと申します。ゴックと呼んでください。2021年の10月に帯広に来てから一年間経ったので現在は2年目のCIRです。

ベトナムのハノイ大学で日本語・日本文化を専攻して研修旅行や留学などで3回来日しましたが今回は勉強などの目的ではなくて仕事にやってきたので新しい体験がたくさんあって毎日楽しんでます。



JETプログラムで日本へ来たきっかけは何でしょうか？

5年間日本語を勉強してきて、そして1年間の東京での留学生活はととても楽しかったので、卒業したら日本で働きたいとずっと思っていました。友達からJETプログラムのことを聞いたらすぐ応募してそしてここにやっと来られました。

JET参加者としてどんな仕事をされていますか？

現在は帯広市の国際交流員として森の交流館・十勝で勤めています。私の主な業務は十勝在住外国人と市民の方が交流できる場を作ること、つまりイベントの企画や実施とのことです。インターナショナルトーク、ポットラックナイト、国際文文化祭など外国人にかかわるイベントを今担当しています。イベントのほか、日越や日英の翻訳、通訳、そして小学生にベトナムのことを紹介する学校訪問もやっています。時々ほかの団体からの依頼を受けて料理講座、文化講座の講師なども対応します。

人と話すのが好きなのでこの仕事でCIRとしてたくさんの方と出会えて、皆にいろいろ聞かせてもらったりしてとても楽しいです。

ゴックさんが経験した日本と自国の違いや共通点は何でしょうか？

日本とベトナムの違いはたくさんありますね。

来たばかりの時の一番困ったのは日本には昼寝の習慣がないことでした。ベトナムで働いたら必ず毎日昼寝します。ベトナム人は昼ご飯を食べ終わったら床にシートや布団を敷いて電気を消して寝ます。15分、20分だけの睡眠で午後に居眠りせずしっかり仕事を続けられます。日本に来て、同僚たちは誰も昼寝しないので、自分もしないことにしました。最初の頃、午後に眠くて仕事がつらかったです。しっかりするのにコーヒーとか飲むようになりました。今はもう慣れたので、昼寝をしなくても全然大丈夫です(笑)！

日本の文化にすごくいいことも気づきました。それは休みを取るとき、「私事都合」だけを書いた

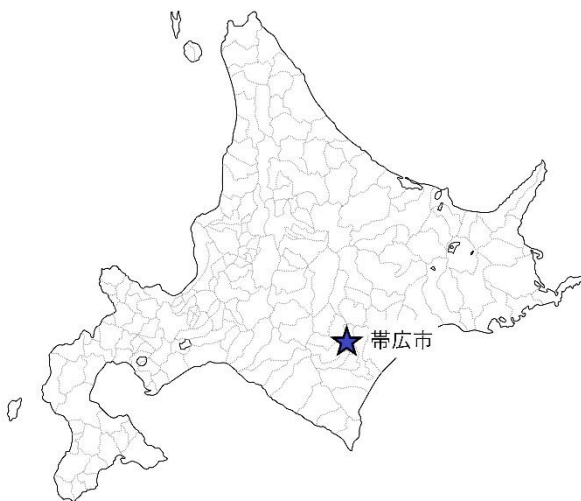
らオッケです。誰にも詳しい理由を聞かれないのでとても楽です。ベトナムには休みを取りたかったら、よく詳しい理由を聞かれるのです。そして頭痛、胃痛等しょうがなく許される理由と旅行や遊び等あまり許されない理由に分けられるという無言の理解があります。そのため、本当にしたくないですが、用事がある時は体調不良の理由で休みを取ってしまいました。ここには「私事都合」を言ったら何も批判されずに休めるのがとてもいいことだと思います。

これまでの北海道生活で印象に残っているエピソードを一つ聞かせてください！

北海道生活で印象に残っているエピソードの一つは2022年の4月に開催した「フン王祭り」というイベントです。このイベントは私の業務に関係なく、ただ十勝在住ベトナム人と一緒に企画して実施したものです。私が来る前にはこういうベトナム人のイベントがなかったです。イベントの成功に多くの同国の友達に協力してもらいました。ベトナムにいなくても自国にいるような暖かい雰囲気の中でベトナムの伝統的な祭りを一緒に過ごすことができました。こういう体験はなかなかないので自分だけではなく、十勝在住ベトナム人、そしてベトナムに興味あって参加していただいた日本人の方々にもとても有意義なイベントだと思います。



帯広市、または十勝地方の好きなところは何でしょうか？



十勝の食べ物、景色そして雰囲気が大好きです。食べ物といえばケーキ、肉、そして野菜が全部おいしいです。景色といえばナイタイ高原、然別湖、富田ファーム等、どこもとてもきれいです。そして一番好きなのは十勝生活の穏やかな雰囲気です。1年間東京に住んでからベトナムに帰った時、バイクや車のクラクションの騒音に慣れられなくて逆カルチャーショックを受けました。この生活は落ち着いて自分にとってちょうどいいと思います。地方は不便だよってよく言われますが、今車を持っていて、いつどこに行くのかとても自由なので生活には何の不便もなく毎日楽しく過ごしています。